5．特殊工事

5－1．車が通る場所に設置する場合

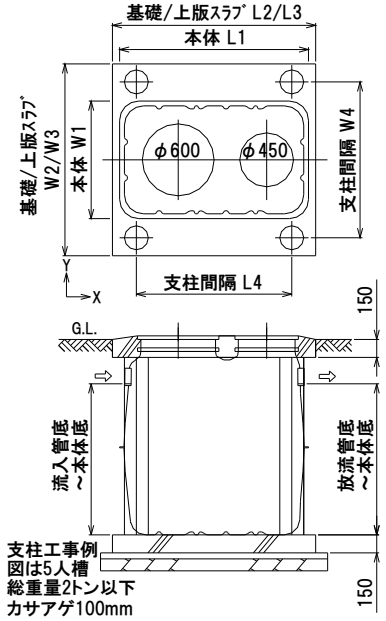
・乗用車（総重量 2t 以下）が通る場所に設置する場合は、次の要領で施工してください。
・総重量が2tを越える車が通る場合は、弊社にお問い合わせください。
・マンホール蓋は耐荷重用のものを正しく選定してください。

マンホール選定表

マンホール蓋荷重種別の表示		用途
安全荷重表示	500K	乗用車(2000cc以下
	1500K	～ 3t　トラック等
	5000K	～15t　トラック等

標準施工寸法表(mm)

各部／人槽	5	7	10
本体　L1	1580	2120	2790
本体　W1	980	980	1200
本体高さ	1530	1530	1550
基礎スラブ　L2	1700	2200	2900
基礎スラブ　W2	1600	1600	1800
上版スラブ　L3	1700	2200	2900
上版スラブ　W3	1600	1600	1800
流入管底-本体底	1260	1260	1250
放流管体-本体底	1260	1260	1250
支柱間隔　L4	1300	1800	2500
支柱間隔　W4	1300	1300	1500



配筋仕様

基礎スラブ	X方向	D10@200シングル
	Y方向	D10@200シングル
上版スラブ	X方向	支柱位置(幅300)3-D13
		その他D10@200シングル
	Y方向	D10@200シングル
支柱　φ200	主筋	4-D13
	HOOP	D10@100

※上版スラブには開口補強筋を必ず入れてください。

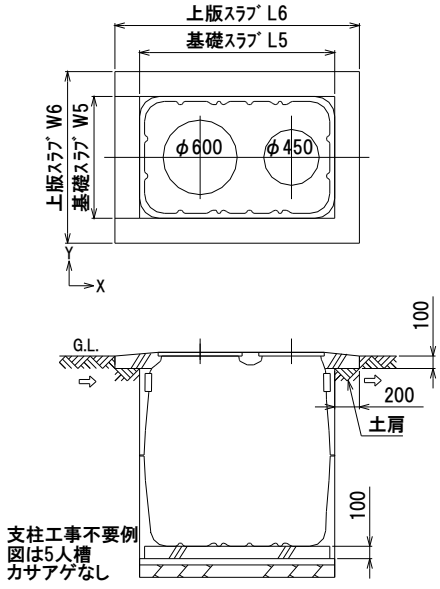
●支柱レス工事

・総重量（車両と積載重量）が2t以下の場合で、
　支柱を立てない施工方法です。
・上部スラブは必ず地耐力30kPa以上の土肩で、
　200mm以上受けるようにしてください。
・浄化槽の真上に乗用車が位置するよう配置してください。
・積雪深さ1m以下の地域が対象となります。

支柱レス標準施工寸法表(mm)

各部／人槽	5	7	10
基礎スラブ　L5	1500	2040	2690
基礎スラブ　W5	900	900	1120
上版スラブ　L6	1980以上	2520以上	3190以上
上版スラブ　W6	1380以上	1380以上	1600以上

・詳細は現場の状況に応じて設計された施工図に基づいて
　工事を行なってください。



配筋仕様

基礎スラブ	X方向	D10@200シングル
	Y方向	
上版スラブ	X方向	D10@200シングル
	Y方向	

5－2．深埋めの場合

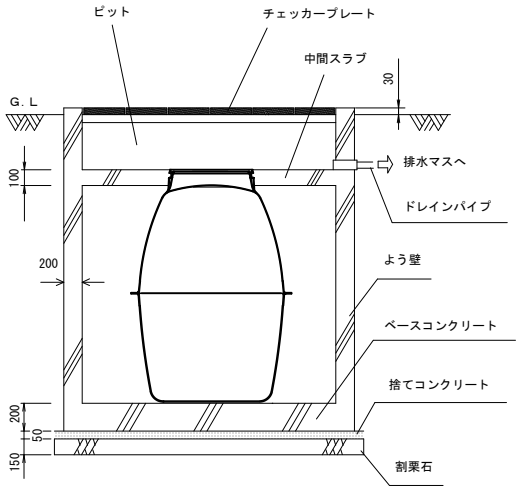
・300mm を越える嵩上げは、絶対にしないでください。

300mm を越えると、大きな土圧が浄化槽本体にかかり、槽が変形したり破損のおそれがあります。
また、保守点検時の操作・作業が十分に行えず、放流水質が悪化する原因になります。

・深埋めが300mmを越える場合
　原水ポンプ槽を設置して、深埋めを300mm以下にしてください。
　原水ポンプ槽が設置できない場合は、ピット工事を行ってください。
　ピット工事は次の例を参考にしてください。

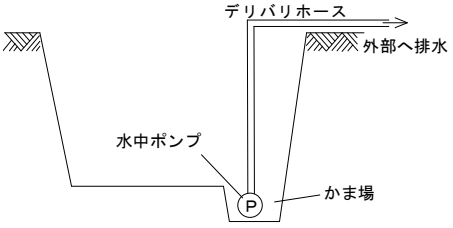
・土圧から浄化槽を保護するために、浄化槽の周囲によう壁を設けてください。
・ピット内には水抜き用のドレインパイプを設けてください。

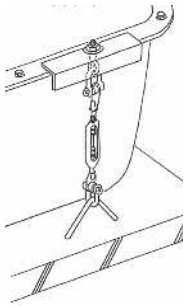
※右図は施工例です。よう壁にかかる土圧、上部からの荷重などを十分に検討して、よう壁の仕様を決めてください。



５－３．湧水がある場合

・地下水の多い場所や軟弱な地盤の場合の掘削は、必
　ず法面崩壊防止のため適切な施工をしてください。
・湧水がある場合には右図のように、かま場を作り、
　ポンプで排水しながら作業を行ってください。
・地下水位がベースコンクリート上面より高い場合には、
　槽の浮上や槽本体の破損を防止するため、浮上防止
　工事を行ってください。本体の周囲をコンクリートで
　固めるか、または専用浮上防止金具（別売）を取り付けて下さい。

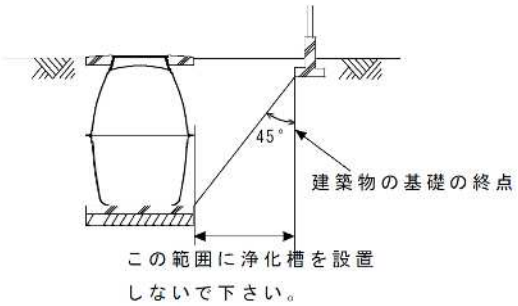




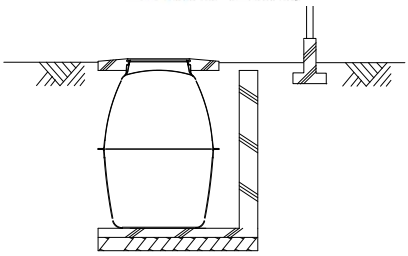
浮上防止金具施工例

５－４．建築物や道路のそば、がけ下など特殊な荷重が浄化槽にかかる場合

・建築物、道路のそば、およびがけ下などは、非常に大きな土圧が浄化槽にかかりますので、次の要領で工事を行ってください。
　１）設置場所が広くとれる場合
　　設置場所が広くとれる場合は、浄化槽を建築物等から離して設置してください。



　２）設置場所が狭い場合
　　設置場所が狭く、浄化槽を建築物等から離して設置できない場合は、よう壁を設けてください。



<u>よう壁の仕様は、よう壁にかかる荷重の大きさや荷重の方向によって異なりますので、構造計算を十分行って施工してください。</u>

５－５．臭突配管工事

・臭気がこもるような風通しの悪い設置場所や放流ポンプ槽がある場合は、必ず臭突配管工事をしてください。
◆<u>臭突配管工事は、次の要領で行ってください。</u>
・臭突管の立ち上げ位置は、近所の建物の窓の位置を配慮して決めてください。
・横引き管はできるだけ短くし、浄化槽に向かって下り勾配になるようにしてください。
・立ち上げ高さは、建物の軒下より 1m 以上にしてください。
・立ち上げ管は、風などで倒れないようにサポートを取り付けてください。
・臭突ファンは、換気風量がブロワ風量の 10 倍以上あるものを使用してください。
・臭突管の接続方法
　浄化槽本体に設けている臭突口のキャップを取り外し臭突管と接続してください。

